

日間にわたって「人口学における理論、パラダイム、説明アプローチ」(Théories, paradigmes et courants explicatifs en démographie) というテーマのもとに開催された。初日には開会式に続き、第1セッション「一般的、認識論的視点」(5報告)が開かれ、第2日目には第2セッション「国内移動」(4報告)、第3セッション「出生力」(8報告)が開かれ、第3日目には第4セッション「死亡力」(5報告)、第5セッション「家族と世帯」(6報告)に続き、閉会式が行われた。

2～3の報告は英語で行われたが、報告の大部分はフランス語で行われ、討論の大部分もフランス語によるものであった。参加者総数は約150人でルーバン・カトリック大学の関係者が半数近くを占めたと思われるが、ベルギーだけでなくフランス、イタリア、カナダ(特にケベック州)等の人口学者や社会学者も多数参加した。また、アフリカを中心とする途上国からの参加者も多数いたが、大部分は同大学大学院の卒業生か在校生であった。アジアからの参加者は筆者のみであった。1998年のケトレー講座はJosianne DUCHENE 博士と Françoise BARTIAUX 博士を組織者として「世帯と家族」をテーマのもとに11月25～27日に開催される予定である。(小島 宏記)

## ハジェテペ大学人口研究所創立30周年記念人口会議

トルコのアンカラ市のハジェテペ大学(Hacettepe Üniversitesi) 会議場で同大学の人口研究所(Nüfus Etütleri Enstitüsü, Hacettepe Institute of Population Studies) 創立30周年を記念し、同研究所長のSunday ÜNER 教授を組織委員長として1997年12月2日(火)～5日(金)にかけて第3回全国人口学会議(III. Ulusal Nüfusbilim Konferansı)が開催された。同会議には人口学者を中心とする関連分野の研究者、行政官が内外から多数参加した。この会議は第3回とは言うものの、第1回が1968年、第2回が1975年に開催されているので、22年ぶりのものであった。

毎日午前中の2つの時間帯と午後の3つの時間帯のそれぞれで同時に2～3セッションが開催され、かなり密度が濃く、人口学のほとんどすべての分野にわたる約40のセッションがあった。大部分のセッションはトルコ人によりトルコ語で行われたが、一部に英語のセッションもあり、外国人とトルコ人が報告した。それらのうちで「1996年トルコ国際人口移動調査の方法」(Methodology of the 1996 International Migration Survey)と題されたセッションは、NIDI(オランダ学際人口研究所)がEUの資金で実施している国際移動者の送り出し国におけるサンプル調査に関するもので、NIDI担当者のJeanette Schoorl 博士も参加し、興味深かった。また、「人口分野における国際援助機関」(International Donor Organizations in the Field of Population)と題されたセッションではUNICEFのアンカラ事務所代表である日本人が報告したが、トルコで家族計画のIEC分野の援助活動をしているJICA(国際協力事業団)の派遣専門家も多数参加していた。さらに、開催時期がEUが新加盟国の候補者選びの結果を発表する直前に当たっていたため、EUと関連する英語のセッションも開かれ、トルコ人のEU加盟への期待がひしひしと伝わってきたが、トルコが人口学的、経済的にEU諸国と異質であることを示す研究が多かった。(小島 宏記)